

授業科目名： 異文化間コミュニケーション	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： ダニエル・ウッズ 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)	元横浜市教育委員会英語指導主事助手 公立中学校での英語指導に関して、ネイティブの立場から教員研修に携わる。また、私立中学校・高校において英語を用いたコミュニケーションに関する指導も継続して行っている。		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> ・異文化コミュニケーションを考える際に基本となる視点や理論を理解する。 ・他者への共感と他者理解の重要性について考えを深める。 ・自文化を相対的に捉える視点を養う。 ・異文化コミュニケーションに資する実践的なコミュニケーション能力を身に付ける。 			
授業の概要 <p>私たちの日常生活でも文化的な背景の異なる人々と接触する機会が増えてきており、それらの人々とより良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力も必要となってきた。また、日本人同士では何でもないことでも、外国人にとっては大きな問題につながるが多々ある。そこで、本授業では、異文化コミュニケーションを考える際に基本となる視点や理論を学ぶとともに、他者への共感と他者理解の重要性について考えを深める。なお、スクーリングでは、コミュニケーション・エクササイズやアクティビティを取り入れた、実践的なコミュニケーション能力の育成も図るとともに、自文化を相対的に捉える視点を養う。</p>			
授業計画 第1回：イントロダクション 第2回：現代社会と異文化間コミュニケーション 第3回：コミュニケーションとは 第4回：言語コミュニケーション（話し方） 第5回：言語コミュニケーション（相互発話） 第6回：非言語コミュニケーション（身体動作） 第7回：非言語コミュニケーション（準言語） 第8回：文化について（価値観、国民文化） 第9回：文化について（価値観の比較、その他の文化） 第10回：異文化について（異文化体験についてグループ・ディスカッション） 第11回：プレゼンテーション①（日本の季節行事について）			

第12回：プレゼンテーション②（教員が提示した時事課題について）

第13回：プレゼンテーション③（振り返り）

第14回：自文化を相対的に捉える視点

第15回：まとめ（学んだことを整理し、今後の自己課題を明らかにする）

定期試験

*スクーリングでは第10回～第13回を中心に、すべての内容を包括的に取り上げる。

教科書

Kyoko Yashiro, Cecilia Ikeguchi, Robin Sakamoto. (初版2013).

What do you mean? Exploring communication Gaps. KINSEIDO

参考文献

Scott Berlin・小林めぐみ『World Adventures DVDで学ぶ世界の文化と英語』金星堂, 2011

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。